

宇和島市公共サインガイドライン

概要版

令和6(2024)年5月

1. 宇和島市公共サインガイドラインについて



● サインガイドライン策定の目的

宇和島市では、公共空間における案内誘導や施設利用者のマナー向上などのため、公共サインを運用してきた。 しかし、デザイン面の不統一や、掲出ルールが無いことにより秩序を失った状態でサインが設置され、サインが景観を 損なってしまっている。これらの課題を解決するため、「宇和島市公共サインガイドライン」を策定し、良好な景観形成を 図り、だれにでもわかりやすく、人の安全・安心が確保できるサインの整備を実現し、宇和島市のブランドイメージを 向上させることを目指す。

<公共サインの課題例>

表示面のデザインが ーされていない





ない



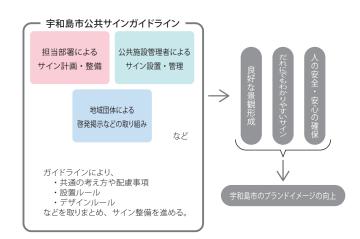
・掲出高さが適してい

ばらばらに掲出され 景観を乱している





<サインガイドライン策定により目指すこと>



● 公共サインとは

市などの公共団体が設置する標識や看板類のこと。

・現状の宇和島市内の公共サインの例





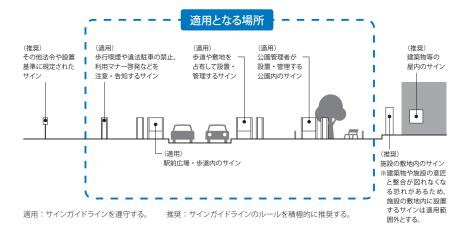






● 適用範囲

宇和島市が公共空間に設置する常設のサインを適用範囲とする。適用となる場所は下図のとおりとし、適用範囲 外のサインであっても、サインガイドラインの基準を参考とすることで、より統一感のあるサイン整備が見込まれる ことから、サインガイドラインのルールを積極的に推奨する。





● 配置のルール

サインを計画的に配置し、確実に案内誘導ができるようにするため、サインの基本的な配置の考え方を「線的配置」と「点的配置」の2つにわけて整理した。また、バリアフリーや運転者への配慮、サインの集約によって美観を守り 景観へ配慮する考え方なども合せて整理した。

<基本的な配置の考え方>



配置の考え方1:線的配置

起点から目的地点の終点までの経路上に、情報が途切れないように連続してサインを設置する。主に歩行者の案内誘導に用い、配置するサインは、

・ 起点 :目的地点の位置関係を把握するための案内サインや誘導サイン

・ 分岐点 :案内図併設の誘導サイン・ 中間地点:背の低い道標型誘導サイン

・○ 終点 :目的地の名称を示す位置サイン などとする。

配置の考え方2:点的配置

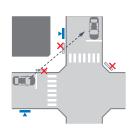
●歴史文化施設/文化人ゆかりの地などで、その場所(点)が確実に伝わるようにサインを設置する。配置するサインは、解説サインなどとする。

<バリアフリーへの配慮>



- ・車いす使用者が容易に 近づくことができるよう、 足元に勾配や障がい物 がない場所に配置する
- ・点字ブロックの妨げとならないよう配慮する

<運転者への配慮>



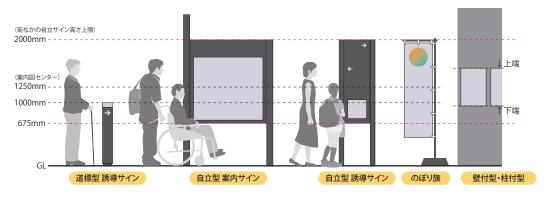
- ・歩道上に設置する場合 は道路と平行に配置する
- ・車道の進行方向左側や 交差点の角など、運転 者の視界の妨げになら なる場所にサインを配置 しない

<サインを集約し景観へ配慮>



● 掲出高さのルール

サインは、表示面が無理なく自然に視界に入る高さに掲出する。また、ユニバーサルデザイン、バリアフリー及び 公共空間の景観との調和に配慮して掲出する。

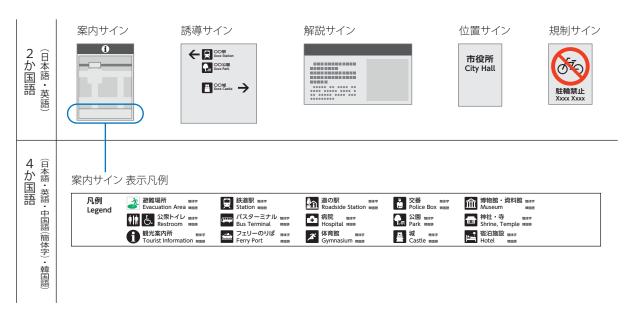


3. 表記の考え方



● サインに使う言語数

市内への外国人の来訪状況、パーソナルデジタルデバイスで多言語情報の入手が容易になったことなどを踏まえ、サインでの表記言語数は日本語と英語の2か国語を基本とする。案内サインの表示凡例部分は日本語、英語に加え、韓国語、中国語(簡体字)の4か国語表記を基本とする。



● やさしい日本語表記の活用

宇和島市に来訪する外国人や、市内在留外国人、障がいのある方にもわかりやすいサインとするため、施設利用の安全性を高める規制サインなどの表記は「やさしい日本語」の使用を検討する。

一般的な文章

 \longrightarrow

やさしい日本語

犬を連れて公園を利用する際のルールについて

- ・公園内では飼い犬に必ずリードを装着すること
- ・芝生や砂場へは飼い犬を立ち入らせないこと

プログラス できれて公園を利用するときのルール

リリードをつける

◇芝生や砂場に犬を入れない

4. デザインの考え方(1)



● うわじまブランド デザインガイドラインの活用

宇和島市のイメージの統一、魅力や価値を高めていく象徴として制定された「うわじまブランド」のデザイン要素をサインに取り入れることで、市外から来訪した利用者や宇和島市民に対してブランドやビジョンを伝達していく。

●色彩

表示面の文字と背景は、コントラストが大きく見分けやすい色の組み合わせとし、器具に使用する色彩は、周辺環境との調和に配慮する。カラーユニバーサルデザインの観点から、サインに使用する色彩は、色の見分けが困難な組み合わせを避けることや、色だけで情報を伝えないように工夫することで、高齢者、色の感じ方が異なる色弱やロービジョンの利用者など、できるだけ多くの利用者に情報が正しく伝わるようにする。

<色覚による色の見え方の例とサインに色分けを使う際の配慮例>



色だけで情報を伝えない

● ピクトグラム

文字を介さずに情報を伝えることができるピクトグラムは、「JIS Z 8210 案内用図記号」の最新版を基本とし、母国語の表記がない外国人の利用者にも、情報提供の手段として有効であるため、サインで積極的に活用する。

















































● 景観と調和したサインの機能種別ごとの標準デザイン

サインガイドライン全体の考え方を踏まえ、宇和島市で必要なサインの機能と設置形式を整理し、景観と調和したサインの標準的な器具と表示面のデザインを決定した。

・広域案内サイン



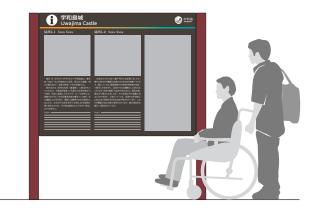
エリア案内サイン



- ・自立型誘導サイン
- 道標型誘導サイン
- ・自立型解説サイン







・自立型規制サイン







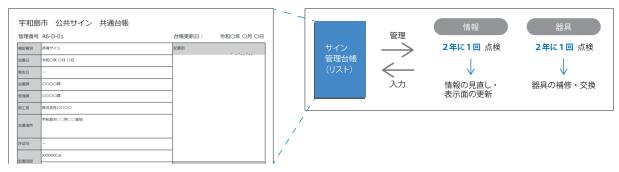
6. サインの維持管理について



● サインの更新と管理台帳の活用

表示情報と器具は「2年に1回」点検報告を行う。サインの維持管理にあたり、管理台帳を作成する。台帳はサインガイドライン担当部署が所管し、情報更新や器具メンテナンスの状況を把握する。新たに設置するサインについては設置者が管理台帳を記入する。

<点検のタイミングと管理台帳のイメージ>



● 仮設サインの取り扱い

注意喚起や利用案内などのため、一時的に設置する仮設サインについて、管理ルールを設定し、仮設サインが 長期間放置されることを防止することで、景観の審美性とわかりやすさの向上につなげることを目指す。

<現状の仮設サインのデザイン例>





<ガイドラインで取り決める管理ルール>

・継続設置可能期間 : 1年間

→1年以上設置するものは常設化し

たサインの設置を推奨。

・要不要確認 : 1年毎に仮設サインの必要性を確認

し、同時に設置の位置を見直す。

<テンプレートを用いた仮設サインのデザイン統一>

これまで、宇和島市内で掲出されていた仮設サインの内容を踏まえ、場面に応じて使い分けが可能な仮設サインのデザインテンプレートを作成した。一時的な掲出であってもデザインテンプレートを使用することで、公共サインの一部として仮設サインのデザインの統一を図り、景観へ配慮する。

・仮設サインテンプレートの例







